

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 9 - 24

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名	左の沢川災害復旧事業						
評価者	担当課名	建設水道課		担当係名	土木管理係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長	
		氏名	大場利昭		氏名	田原慎也	
事業の概要	本事業は、7月の集中豪雨により既設のふとん竈及び接続ブロックが決壊したため、これを復旧する事業であります。				全体計画 / 単年度のみ (平成 21 年度 ~ 21 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 1,300 千円 事業費計 1,300 千円		
実施方法	直営	民間委託		その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~				
	基本施策	#	消防・救急・防災体制の強化				
	単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化				
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	1,233 千円	千円	千円	千円	
	合計	千円	1,233 千円	千円	千円	千円	

591

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	背後地の被災範囲の拡大。	復旧延長			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	河川の原形復旧。	指標 (指標計算式 / 解説)	復旧延長 / 復旧延長の実績	目標値及び実績値	
				目標年度	平成21年度
				目標値	44 m
				実績値	44 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	早期の原形復旧により被災拡大の防止。			達成度	100.0 %
				目標年度	
				目標値	
				実績値	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、決壊箇所の復旧を実施した。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	雄武町管理河川の決壊箇所を復旧することは、被災範囲拡大の防止上、町が担う必要がある。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	護岸復旧工事を実施したことにより、被災範囲の拡大防止が図られた。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	被災範囲の拡大防止と入札により事業費が抑制されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	護岸復旧工事を実施したことにより、背後地の決壊防止が図られたことは公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
事業が目標どおり達成された。		



継続 / 現状維持		
平成21年度事業完了。		

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--